

イノベーション・コースト構想の 更なる推進・連携強化に向けて

2016年10月28日

福島県



福島県復興シンボルキャラクター
「ふくしまからはじめよう。キビタン」



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

《イノベーション・コースト構想を取り巻く現在の状況》

- 楢葉遠隔技術開発センターの稼働開始やロボットテストフィールド等の基本設計公募開始など**拠点整備が具体化**しているほか、**避難地域の解除が順次進行**する中、帰還住民に向けた産業復興の要請の本格化が想定され、同構想は、これまでの単なる構想段階を越えて、**具体的にいかにこれらの拠点を運営していくか**、また、今後整備される拠点を含めて**いかに浜通りの産業復興に具体的につなげていくかが問われる、新たなステージに突入**。
- そのため、行政だけでなく**民間企業や研究機関などが主体的に同構想に参加できるような仕組みづくり**が必要。
- また、同構想が扱う分野が製造業、エネルギー産業、農林水産業等の産業のみならず、情報発信や人材育成、交通アクセス等、様々な分野に及ばざるを得ないことから、**政府における本格的な省庁横断的な連携体制の構築が是非とも必要**。

① 今後事業化に向けて検討とされている拠点の整備方針の決定

② 拠点従事者・利用者等のための居住・滞在環境、交通環境の確保・整備

③ 国内外から人を集めるために必要なその他のインフラの整備

④ 拠点を活用した幅広い産業へのアプローチ

⑤ 構想を担う人材の育成や様々なチャレンジの創出

⑥ 拠点間の連携体制を含め、浜通りの産業復興を総合的に進める体制

① ロボットテストフィールド

- 3つのテーマでの屋外ロボットの認証・オペレータ検定のための試験法開発
 - ⇒ 世界的にも当地にしかない機能
 - ⇒ 国内外の企業が利用
 - ⇒ 地元企業との連携 +
 - ⇒ ロボット産業の集積
- 
- 
- 
- 
- 物流 インフラ点検 災害対応
- 我が国随一の屋外ロボット実証開発フィールド
 - ロボット国際競技大会の一部競技の開催誘致

② 福島浜通りロボット実証区域

- ロボットテストフィールドと一体となった実際的なロボットの
実証の場を提供
- 
- ドローン実証飛行

③ 国際産学官共同利用施設

- ロボットテストフィールドと連携した試作段階での様々な分野のロボットを開発
 - 地元企業への技術指導、
県外企業との
マッチング
(ハイテクプラザ
浜通り分所開設)
- 
- 共同利用施設イメージ図

各拠点の特長を生かした連携



⑧ その他の施設

- 環境創造センター(環境放射線センター)
- 浜地域農業再生研究センター
- 水産種苗研究・生産施設 等


④ アーカイブ拠点施設

- 震災・原子力災害の実態や教訓
について国を越え、世代を超え
て継承・共有

⑦ 大熊分析・研究センター

- 放射性物質の分析・研究
 - ⇒ 安全かつ確実な廃炉
- 
- 大熊分析・研究センターイメージ図

⑥ 廃炉国際共同研究センター

- 国内外の最先端の知見を集めた廃炉技術
を開発 ⇒ 将来的な廃炉産業への活用
- 
- 廃炉国際共同研究センター
国際共同研究棟イメージ図

⑤ 檜葉遠隔技術開発センター

- 廃炉ロボット等の屋内ロボットの開発
 - 廃炉ロボットの国際標準の策定
- 
- 檜葉遠隔技術開発センター

検討状況等

- ❑ イノベーション・コースト構想を取り巻く状況を踏まえ、平成28年7月31日の第13回原子力災害からの福島復興再生協議会で、構想推進を一層推進する観点から、知事より「産学官一体となった推進体制の構築」を復興大臣等に協議・要望。
- ❑ 復興大臣（当時）からも「しっかり対応を検討する。」旨の前向きな発言あり。

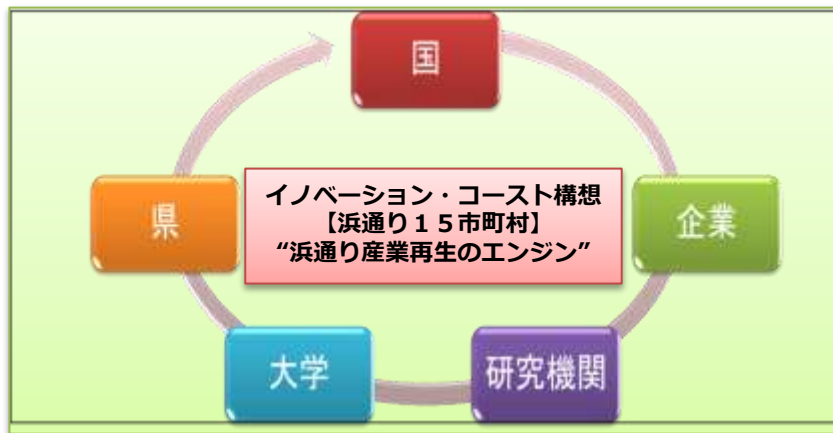
■ 産学官一体となった推進体制の構築（要望内容）

➤ 国は、構想を特に重点的に推進するための体制等について、福島復興再生特別措置法による法制上の措置も含め検討すべき。

【必要な法制上の措置】

- ① 省庁横断の、国家プロジェクトとしての位置付け
- ② 構想を計画的かつ一体的に推進できる制度の創設
- ③ 体制充実も含めた安定的推進のための施策 等

【イノベーション・コースト構想の位置づけ（イメージ）】



【高木復興大臣（当時）回答】

- ・ 各プロジェクトの早期整備、立地が進むよう、関係省庁、福島県、市町村と連携して取組を加速していく。
- ・ 制度や体制の充実については、極めて重要な課題であると認識し、しっかり対応を検討する。

調査の目的

- ① イノベーション・コースト構想の更なる推進のため、同構想に関する現状及び課題の整理とともに、浜通り地域等の産業構造を分析した上で、同構想と浜通り地域等の産業を連携させ、目指していく方向性を検討。
- ② また、地元自治体のみならず、民間企業、研究機関などの関係主体と共有の上、産学官が一体となった取組の具体的な検討。

調査事業の概要

(1) 調査・分析

《現状分析》

- 浜通り地域等の現状・課題整理
- イノベーション・コースト構想の現状・課題整理

《方向性整理》

- 浜通り地域等の産業構造分析・方向性検討

- ・ 現状整理の結果を踏まえ、**今後、浜通り地域等における産業が目指していく方向性（注力すべき技術分野や研究テーマ等の抽出）**
- ・ その方向性実現に向けて必要となる実施体制の検討
- ・ 情報発信のあり方や交流人口の拡大を含む取組についての検討



(2) 情報発信

年度末（3月）に、将来方向性を共有し、企業、大学、県等による情報交換の場を開催